



城東地区隊募集相談員連絡協議会に対する防衛講話

自衛隊東京地方協力本部（本部長 楠見 晋一陸将補）は、5月29日、東京地本城東地区募集相談員連絡協議会総会に参加した会員に対して、（楠見）本部長による防衛講話を実施した。

この防衛講話は、会員の防衛意識の高揚及び募集相談員としての知識の向上を狙いとして毎年実施しており、本年度は、東京都募集相談員連絡協議会の会長でもある松本光史氏の発意により、昨今の厳しい募集環境下における募集活動を積極的に支援するために必要な募集相談員と東京地本との情報共有を目的として企画された。

講話は、「地方協力本部の募集業務の現状」と題し、東京地本の概要と募集の現状の二項目に沿って行われ、現在の募集環境における対象者人口等の今後の見通しを説明するとともに有効求人倍率及び自衛官等採用数の推移から自衛官募集に関しては当面厳しい局面が予想される中、我が国の防衛という国家存立にとって最も根源的かつ崇高な役割を担うために優れた人材を確保して、もって真に戦える精強な自衛隊でなければならないという自衛官募集の重要性について説明した。

また、東京地本の特性や、地方自治法等に基づく地方自治体の役割などを説明したうえで、都内の学校開拓状況、各自治体における募集対象者情報に係る資料提供等、現状の課題などの改善に向け協力を依頼した。

最後に、自衛官候補生の概要やその処遇等を紹介し、自衛官募集に対する協力依頼をして講話は終了した。

聴講者からは、「自治体の協力態勢など様々な問題の実態を知ることができた」、「我々が出来ることから積極的に支援したい」との感想をいただいた。

自衛隊東京地方協力本部は、今後も様々な行事等を通じて、一人でも多くの方に自衛隊の活動が理解され、その中から一人でも多くの若者が自衛隊を志願していただけるよう積極的に募集広報活動を推進していく所存である。



東京国際消防防災展2018での広報活動

東京地本江東出張所は6月2日及び3日の2日間、東京ビッグサイトで5年ぶりに開催された「東京国際消防防災展2018」において、第1普通科連隊の支援を受け、自衛官の募集広報活動を実施した。

当該イベントは過去の災害を教訓とした各種災害リスクを周知し、都民等の防火防災意識を向上させるとともに、住民・企業・行政による三者相互の連携強化を目的として行われたものであり、自衛隊の存在意義を周知して防衛基盤の拡充を図り、自衛官募集に繋げるために参加したものである。

両日とも会場には江東区民のみならず、都内及び近隣の各県からの約3万2千人が来場し、自衛隊のブースにも多数の方が足を止めて、展示された炊事車や大型トラック及び災害派遣の写真展示に見入っていた。

特に、初めて見る炊事車や大型トラックの大きさに驚いた様子で、広報ブースと併せて、自衛隊のことを身近に感じているようだった。

写真を撮った方々から、「今日はとても良い記念になりました。ありがとうございます」と感想の言葉と併せて、「自衛隊さん、これからも頑張ってください。」との励ましの言葉が聞かれ、参加した広報官や隊員は更に広報活動への士気を高めていた。

東京地本江東出張所では今後も地域に密着した募集・広報活動を実施するとともに、関係部隊等とも連携を密にして、防衛省・自衛隊の活動に対する東京都民等の理解と関心を高め、自衛官募集活動の業務に繋げてゆくとしている。

